

勤務医と医師会活動



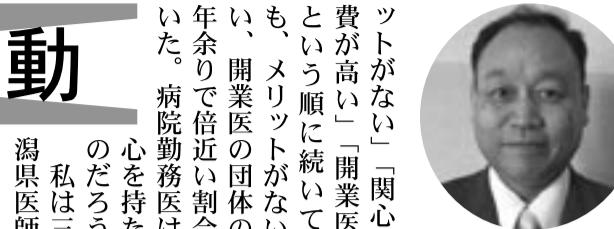
私は大学卒業以来、一途に勤務医を続けて、三十多年になります。これまでアメリカ留学もあって、医師会の存在さえわからなかつたと記憶しています。わからないうといふこと、気にしていませんでした。四十代になって、大学に落ち着き、自宅を建てようとして銀行にローンを申し込みだときには、医師会での定期預金を行つていて金利が少し安くなるとわかったのです。早速、医師会に入会し、結果どうとしています。二年以内に勤務医会員を続けています。私が医師会に加入した理由はかなり不純な動機です。医師になつた二十代

この春からは日本医師会の理事になり医師会活動を内部から見ることになりました。三十年ほど前医師会に入会したが、これまでは皆さんと同じような距離感を感じていたと思う。特に日本医師会は、政治の圧力団体として中医協などで診療報酬確保に精力を費やし、病院団体とは診療報酬点数の奪い合いをする相手と思っていた。日本医師会の理事会には、各種政府機関の諮問委員や検討会の構成員として、意見を求めるところは想像通り開業医や民間病院経営者に近いと感じた。三年前までは自治体病院協議会の常

新潟県医師会 理事 堂前洋一郎

勤務医と医師会とは――勤務医にとつて医師会とは――

新潟県医師会 理事 塚田芳久



昨年の勤務医アンケートによる「開業医の団体だ」に加入しない原因として、「メリットがない」「関心がない」「会費が高い」「開業医の団体だ」と、医師会に加入しない

この春からは日本医師会の理事になり医師会活動を内部から見ることになりました。三十年ほど前に医師会に入会したが、これまでは皆さんと同じような距離感を感じていたと思う。特に日本医師会は、政治の圧力団体として中医協などで診療報酬確保に精力を費やし、病院団体とは診療報酬点数の奪い合いをする相手と思っていた。日本医師会の理事会には、各種政府機関の諮問委員や検討会の構成員として、意見を求めるところは想像通り開業医や民間病院経営者に近いと感じた。三年前までは自治体病院協議会の常

新潟県医師会 理事 塚田芳久

日本医師会の活動

日本医師会 理事 塚田芳久



所行
新潟県医師会
新潟市中央区医学町通2-13
TEL 025(223)6381

勤務医の先生方のありがとう

新潟市医師会 理事 勝井豊



新潟市の休日と夜間の一次救急の拠点である新潟市急

患診療セン

ター（以下

セントラルと略す）に出勤してい

ただいている医師は、年間で延べ三千名近くになりますが、そ

の約半数が勤務医であることを御存じでしょうか。昭和四十八

年に内科と小児科の休日診療を

行うことを目的に発足したセン

ターは、その後平日の夜間も診

療するようになり、開業医によ

る在宅輪番制と共に新潟市の一

次救急を支えてきましたが、そ

の主体は開業医でした。

しかし平成二十一年四月に新

潟市中央区紫竹山の新潟市総合

保健医療センター（旧新潟市民

病院南病棟）の一階に移転して、

診療科も整形外科、脳外科、外

科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人

科が新たに設置されたを契機

に、病院の勤務医の先生方にも

出務への御協力をお願いするこ

とになりました。特に深夜勤務

として勤めさせていただいている

ところです。

勤務医の先生方に

は、驚きと違和感の連続である

と思います。日中の勤務でお疲

れの先生方にとって、不快な

思いをされることもあるに

違ひありませんが、セントラルが公

の差はありませんが、社会情勢に

応じて現在医師会が最も注力し

ている分野は、病診連携と在宅

医療と救急医療です。勤務医の

先生方もよく御存じのことと存

りますが、いずれも勤務医の先

生方と開業医とが両輪の関係に

なつて初めて機能できることで

あります。

ところです。

セントラルの受診者は

年間六万人を超えていますが、

そのなかには重篤な経過を示す

場合や、見落としやすい病態も

含まれています。こうした状況

に対応するために、医師会はそ

れぞれの診療科の要点を踏まえ

たマニュアルを作成中ですが、

勤務医の先生方からも専門医と

場合や、見落としやすい病態も

含まれています。

こうしたマニュアルを作成中ですが、

勤務医の先生方からも専門医と

場合や、見落としやすい病態も

燕市医師会の活動に参加して 一勤務医にとつても「一番アクセスしやすく

パワートがある組織では



燕市醫師會
副會長
田宮洋

の吉田町・分水町班と現西蒲原郡弥彦村の医師会員による新組織となり、会員数は九十一名です。勤務医の会員は、燕劳災病院と県立吉田病院ともに十四名で、常勤医の加入率はそれぞれ五六%と六一%と県平均の五三%を若干上回っています。

してから燕市医師会の二名いる副会長の一人として毎月の医師会の定例理事会に出席してきました。ここでは県医師会や地元で開かれた多数の会議の報告と協議が行われ、病院と異なり開業医では保健所や市役所などの行政や学校との公衆衛生に関する協同行動が多いのに驚かされました。学校医活動や自殺予防、認知症、地域福祉計画から食育まであります。主たる活動としては製薬メーカーと共に催する学術

地域医療再編成に地域医師会が果たす役割はきわめて大きい



小千谷市魚沼市
医師会理事 布施克也

A black and white portrait of a middle-aged man with dark hair and glasses, wearing a light-colored button-down shirt. He is looking towards the left of the frame with a neutral expression. The background is plain and light-colored.

域医療魚沼学校」と名付けた取り組みは、魚沼医療再編成のためのソフト事業として採択され、魚沼医療圏の各医師会単位で、行政との協力のうえで住民啓発や多職種連携などを中心事業として動き始めています。医師会での議論がなければこのような活動はありませんでした。診療所の医師は、みなさん勤務医経験をもち、いまは地域の中で仕事をしています。病院勤務医の発想と、在宅医療を担う立場の発想の両方を理解しています。雇用される立場と管理する立場の両者を知っているともいえます。地域医療の要は連携であることを一番理解しているのは医師会員であるし、病院と診療所の関係はwin-winでなければならないと考えています。地区医師会は地域住民そして地域社会に根ざしているため、診療所も病院もその最終的な役割は地域にいかに貢献できるかである、という発想がおおもとにあります。地域全体

勤務医が公衆衛生・医療・福祉制度に對して意見を表明し得る制度や組織には、国政・市町村選挙から学会、病院団体など多數ありますが、一番アクセスしやすくてパワーがあるのは地元医師会を通してではないでしょうか。県央地区には病院再編も伴う中核病院の設立の構想がありますが、行政任せでなく地元の勤務医の意見も反映させる必要があり、このためには県央の四医師会のパワーを利用できるのではと考えています。

日には内科在宅当番と外科一次救急も行っています。当院では副院长が県医師会の理事として複数の委員会に属して活発に活動をしていますが、副会长の私が医師会の実務に携わることは少なく、一番の仕事は懇親会の乾杯の音頭です。当院のその他の医師の医師会への関心は高くななく、非会員でも日常診療に全く不便はありません。当地でも医師会活動は開業医が中心です。開業医の方の活動を見聞きしていると休診にして会議に出たり、講演会の発表や運営にあたったり、休日・夜間診療所に出向したり、警察医を務めている方もあります。これらは、経済的合理性には適わないもので、勤務医も含めた医師という職業集団が有する職業への誇りや責任感によるものと感じています。



新潟市医師会 理事 古泉直也

一 勤務医としての 郡市医師会役員

関内でも科によつて大きく異り、勤務医の労働条件交渉なは、個別の技能職集団であるごとの大学の教室や専門医会、担う方が適しており、医師会で行なうことが妥当なのか?とう問題もあります。したがつて勤務医が医師会に利益をもつてゐる、もしくは医師会が勤務医利益があるから参加を呼び掛ける、ということだけでは、勤務医には十分ではないのではないか?と思つております。

勤務医委員会の紹介

新潟県医師会勤務医
委員会 委員長
富所

新潟県では、従来、多くの病院の開設者が医師会費を負担してくれていたこともあり、他の都道府県に比して勤務医の割合が極めて高い。また県医師の理事会にも多くの勤務医が事として参加してきた。その中の勤務医の意見が比較的反映されやすい。多くの都道府県で医務医活動を進めるために、勤務部会という組織が作られた。ここ新潟県では、まずと病院の中の組織として、勤務医委員会が作られ、活動を行つてきる。

ところで、現在の勤務医委員会の活動は季刊紙として年に回発行する勤務医ニュースのつづりと、五年に一回行う勤務医意識調査『勤務医の現状と将来』の編集発刊作業である。県で働く勤務医の現状や思いをく県内の医療者に紹介することを目的としている。勤務医ニュース第一号は昭和五十九年十二月に発行され、本号まで二年間で一二二号を発行した。当初は勤務医に医師会活動を知つてもらうべく、各部会紹介を特集していたが、その後は勤務医を巡る喫緊の課題をテーマに多くの医師に執筆してもらつている。近年では新臨床修制度、勤務医不足、勤務医過重労働、救急医療、僻地医

新潟県における勤務医委員会は昭和五十八年度にさかのち、その前年喧嘩太郎とされた武見太郎氏が二十五年功めた日本医師会長の座を降りて、医師会の発言力が低下したこと、未加入勤務医の増加による組織率の低下を憂え、新潟大学医学部の入学者も女性の割合は三割を超える。新潟大学医学部の入学者も度々投稿して頂いた。その後斐もあつてか、現在新潟県で『女性医師ネット』と言う組織が立ち上げられ、女性医師に寄せられたいろいろな問題の相談解決への提言を担つていて。平成二十二年からは本ニュースを県医師会のホームページで一般市民にも読んで頂くことだ。

編集後記

今日は勤務医と医師会活動について諸先生から書いていただきました。新潟県では医師会員の六〇%程度が勤務医ですが、いまだ医師会未加入の医師は一〇〇〇人以上います。勤務医にとつてはメリットより負担感が多い医師会の現状ですが、より多くの勤務医が活動に参加し、意見を反映させたりできると、医療行政も勤務医の処遇も改善していくのでは……と期待しています。